

**【一般質問】同朋社会をめざす会 田澤一明 議員**

**新型コロナウイルス感染症拡大に対する宗派対応について**

教団のありようをあらわす言葉の一つに、「懇志教団」というものがあります。それは単に経済の流れだけを意味するのではなく、その根底に、信頼と尊敬の関係を基礎とする安危を共同する教団であることが願われている言葉であるのでしょうか。この非常事態下にあつて、今まさに教団の本質が問われています。

また総長は就任以来、「一人の人、一つの寺を大切に支える宗門」を標榜してこられました。その当局は、この危機をどう認識し、どう寄り添おうとしているのか。そのことを念頭に何点か質問をいたします。

第一点目は、今回唯一の支援策である御依頼額の5億円の減額についてです。

前年度御依頼総額の10%の減額が、大きな決断であることは認めます。しかしまず感ずることは、どこか上から目線だということです。「10%を減額する」ではなく、「このような状況にあつてなお90%のお願いをせざるを得ない」ということではないでしょうか。そのうえで、なぜこの金額になったのか。その積算根拠をお示しいただきたい。あわせて、その歳入不足の補填策として「平衡資金から2億7000万円を融通する」としているが、いかなる議論をもってこの金額の融通ということになったのか。その詳細をお示しいただきたい。

第二点目は、慶讃事業についてです。

総長は演説において、「このような危機的状況であるからこそ、大谷派宗門は念仏の僧伽の再興を願って、慶讃事業を遂行し、来る慶讃法要の厳修につなげていかなければならない」と述べておられます。しかし「危機的状況であるからこそ、慶讃事業を遂行する」という接続は誤っているとしか思えません。「危機的状況であるからこそ、慶讃事業を見直す」と言うべきでしょう。この非常事態にあつてなお、29億円もの多大な懇志金をお願いする慶讃事業の見直しにまったく触れられていないのは異様です。

少なくとも、来年4月に計画されている「真宗本廟お待ち受け大会」は、もし開催が可能だとしても、この状況を受けてのものでなければなりません。慶讃事業の方針の一つである「真宗の教えの発信」は、現実には苦悩する人びとへの応答でなければならないからです。

また、多くの予算を使って計画されている重点強化施策の一つである「寺院活性化」についても見直しが必要と考えます。もし教団が寺院や門徒の身に迫った危機に寄り添うことがないのなら、その教団が掲げる寺院活性化の取り組みに、共感や賛同が得られるとは到底思えないからです。

いずれにしても、慶讃事業全体の見直しが必要と考えますが、当局のお考えをお示しくください。

第三点目に、門首継承式と門首公邸の問題です。

## 宗議会 一般質問

門首継承式については、総長演説で「教法聞信、本廟護持の象徴たる門首と、私たち一人ひとりとの関係を確かめる大切な儀礼式」と言われています。であるならば安危を共同するような関係に立った、時宜に相応しい継承式をお願いしたいと思います。また門首公邸の問題も予算と時期を見直すべきと考えます。あわせてお答えください。

最後に、教区交付金の減額とその影響についてです。

総額6億1400万円の御依頼減額により、教区交付金は約1億1000万円の減少となります。慶讃事業特別会計による教区交付金があるにせよ、2900万円にすぎません。差引約8000万円の減額は、単純に平均化して一教区300万円程度の減額となるでしょう。それは教区に、とりわけその教化事業に壊滅的な影響を与えかねません。財務長演説に「艱難辛苦の中にあっても、法縁の回復と教化伝道を絶やさぬため」という言葉がありました。もしそうであるならば、教区交付金の減額を見直すべきと考えます。お考えをお聞かせください。

以上

### 【答弁】 藤井宣行 参務

私からは、経常費御依頼額の減額について、教区交付金の減額とその影響について、慶讃事業の見直しについてお答えします。

まず、経常費御依頼額5億円の減額及び教区交付金の減額とその影響については、沼議員の代表質問、且保議員の一般質問に対する財務長の答弁のとおりであります。田澤議員のご指摘のとおり、「このような状況にあってもお願いせざるを得ない」宗派財政でありますことをどうかご理解いただきたいと思っております。

また、平衡資金からの融通についても御依頼減額による相続講金、諸懇志、読経志といった経常費の収入減が見込まれるためではありますが、皆様の御懇念により、その必要が無くなることを願い、奨励勧募のお願いをさせていただきたく存じます。

次に、教区交付金の減額についてであります。沼議員の代表質問における答弁でも財務長が触れておりますとおり、大変厳しい宗門財政において、教区及び組における教化事業の再点検をいただくなど、ご理解いただきたく存じます。

次に慶讃事業の見直しが必要ではないかのご質問にお答えします。

かねてより、慶讃事業は、教えを次の世代に確かに伝えていくための新たな宗門のかたちをどのようにつくっていくか、一人ひとりが考え、支え合い、立ちあがっていく大切な機縁であると申し上げてきました。それは新型コロナウイルス感染症による感染拡大防止のために仏事の簡素化が進み、また僧侶不要論に拍車がかかるのではないかと不安の中にある今だからこそ、“人間にとって真（まこと）の宗（よりどころ）とは何か”との宗祖親鸞聖人が問い尋ねていかれた仏道を、現代の私たち一人ひとりがいただき、その道を歩みだす、言うなれば「念仏の僧伽の再興」が念仏の歴史から願われていることに他なりません。

慶讃事業に示される取り組みの一つ一つは、その教化の現場たる寺院・組・教区を

## 宗議会 一般質問

支援していくものであります。

特に「寺院活性化支援事業」について、「もし教団が寺院や門徒の身に迫った危機に寄り添うことがないのなら、その教団が掲げる寺院活性化の取り組みに、共感や賛同が得られるとは到底思えない」との厳しいご指摘をいただきました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、時代変化は一段とその著しさを増し、刻一刻と生活のあり様が変わり移っています。この変化が寺院にもたらす影響は計り知れないほど大きなものでしょう。住職をはじめ寺族、門徒、地域を取り巻く人々が感じておられる先行きの見えない不安と、手立ての見えない焦りは、一寺院をお預かりする住職として私もまた強く感じることであります。

しかしながら、そのような状況にあるからこそ、「寺院活性化支援」事業は、教化の現場の開かれることの大切さを確かめながら、寄り添い、共に歩いていくためには、不可欠な施策と認識しております。今までもこれからも、支援の第一は傾聴であることを主として、この状況にあって、教化の現場に必要な支援のあり方は柔軟に策を講じ、広く共感・賛同いただけるよう、推し進めてまいりたいと考えております。

また、明年4月5日に予定しております、真宗本廟お待ち受け大会については、その前日の日曜日に広く一般に公開する記念シンポジウムを企画しており、大きく社会のあり方が変わろうとしている現代にあって、人として生まれ、生きることの意味について見つめてまいりたいと考えております。

教えに出会うということは人との出遇いなしには語れません。また、その場に身を運ぶということに大きな意味があることは言うまでもありません。すでに様々な場で新たなコミュニケーションの試みがなされております。そのような取り組みも検討しつつ、社会状況をきちんと見定めながら、お待ち受け大会の開催の可否や形態について適切な判断をしてまいりたいと思っております。

### 【答弁】 齊藤法顕 財務長

私からは、平衡資金の融通について、門首継承関連事業についてお答えします。

まず、平衡資金の融通についてお答えします。

沼議員の代表質問にてお答えしましたとおり、既に約4億1千万円の予算を削減したうえに、さらに加えてコロナ禍対策を講じるための手立てを熟慮した結果、更なる歳出抑制の徹底と人件費の一部を削減したうえで、平衡資金の融通という判断に至りました。「歳入不足分の全額を平衡資金で対応すべき」や「万一の事態に備えるためにも、平衡資金は確保すべき」と様々なご意見はございましょうが、実効性と即効性のあるコロナ禍対策として、今考えられる最良の手立てとして判断したものであります。

次に、門首継承関連事業についてのご質問にお答えします。

まず門首継承式についてであります。総長演説にもありましたとおり、宗憲制定40周年を迎えんとし、慶讃事業を推進する宗門にあって、このたびの門首継承式は、現行宗憲に願われたあるべき門首像の確かめをとおして、私たち一人ひとりの教法聞信と本廟護持の姿勢をあらためて相共に確かめる機縁としなければならないと受けとめております。

## 宗議会 一般質問

なお、新門首の就任に係る大切な儀礼式でありますので、内事会議にも相談の上、執行期日につきましては、本年11月20日の報恩講前を予定させていただいております。当然、新型コロナウイルス感染症に対する感染予防の観点から、執行規模は縮小せざるを得ませんが、あらゆる方途を尽くしてその意義を皆様と共有できるよう努めてまいり所存であります。

そして、新型コロナウイルス感染症による影響の終息を見定めて、あらためて皆様と共に門首継承を慶祝する機会を設けさせていただきたいと考えておりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

また、議員からは、門首公邸建設の予算及び建設時期について、時宜を見定めて見直すべきというご提言をいただきました。コロナ禍の影響によって先々に変更を余儀なくされる事態も起こりうると想定されますが、現時点においては、新門首が7月1日にご就任されますことから、当初計画どおり宗務審議会「門首公邸建設に関する委員会」において、建設予算並びに竣工時期について慎重審議を重ね、準備を進めてまいりたいと存じます。

以 上